

3. 授業アンケート調査結果

3-1. 【2016年度 前期】授業アンケートの概要

人間科学研究科では、2004年度より、毎学期末に授業に関して受講生に尋ねるアンケートを実施している。2010年度後期より KOAN 上でのアンケートになったが、2014年度前期以降、再び授業内でマークシート用紙を配布・回収する方式に変更した。また今年度より、2011年に開設されたグローバル 30 人間科学コース（以下、G30）でのアンケートも開始された。実施期間は以下の通りである。

2016年度前期アンケート回答期間：2016年7月5日～8月8日

対象科目は、人間科学部・人間科学研究科で実施されている講義科目である。対象科目数・回答数と科目群ごとの内訳は、以下の通りである。受講登録者数に対する回収率は 70.0%であった。（2015年度後期：67.8%）

2016年度前期授業改善アンケート 対象科目数・回答数

		対象 科目数	回答数
学部科目	共通科目	10	176
	行動系科目	11	243
	社会・人間系科目	15	297
	教育系科目	11	386
	G 共生系科目	10	287
大学院科目	共通科目	8	131
	その他	40	321
G30 科目		21	103
計		126	1944

回収数 1944 / 受講登録者数 2776 = 回収率 70.0%

※1 基礎科目は、行動、社会・人間、教育、G 共生系科目に割り振られている。

2 受講登録者数は、アンケートが実施された科目についての数値である。

回収結果は数値化して集計し、自由記述分も含めて教員にフィードバックされている。さらに 2010年度後期より、授業担当教員からアンケート結果を踏まえて授業の振り返りのコメントの提出を求めており、次回の授業の改善に役立てられている。

3-2.【2016 年度 前期】授業アンケートの結果

2016 年度前期の授業改善アンケートの回収率は 70.0%と、2015 年後期の 67.8%から 3%ほど上昇した。また、対象科目数は、あらたに実施が開始された G30 を加え 126 となり、これまでで最も多い科目数で実施されたことになる。今回も引き続きマークシート方式が採用され、集計方式を変更した 2014 年度からの回収率では、2014 年前期の 70.1%に次いで高い値であった。

主要な質問項目である、授業の満足度についての問 10「この授業は全体として良い授業だったと思いますか？」(1~5 の範囲で数値が高いほど高評価を意味する)については、4.72 であり、学生の授業への満足度は例年通り高いといえる。

満足度に関する問 10 以外の質問項目の概要は、以下の通りである。

問 1 の「この授業へのあなたの出席率はどうでしたか？」に関しては、「80%以上出席」が 77.8% (2015 年前期 76.1%) と、昨年度よりも多くの学生が授業に参加しているが、2014 年前期の 87.5%と比較すると下回っている。また、これまで問題とされていた自宅学習に関する項目、問 2 の「この授業の予習・復習にあてた 1 週間あたりの平均時間はどれくらいですか？」に対して、「ほとんどなし」と答えた割合が 41.8%であった。例年この設問についてはつねに 5 割を越えていたが、学生の自宅での予習・復習にあてる時間が大幅に増加し、改善されたといえる (2015 年前期 53.7%/後期 64.4%)。また、学系別集計によれば、行動系では 44.0%まで減少した (2015 年前期 57.5%)。ただし、今回からアンケートを開始した G30 の割合が 7.8%と全体の平均を大きく引き下げているため、実際に改善傾向にあるかどうかについては次年度以降の経過を観察することが必要である。問 4 の「授業内容はよく理解できましたか？」の全体の平均値は 3.78 であり、ほぼ例年と同じ数値を示した。

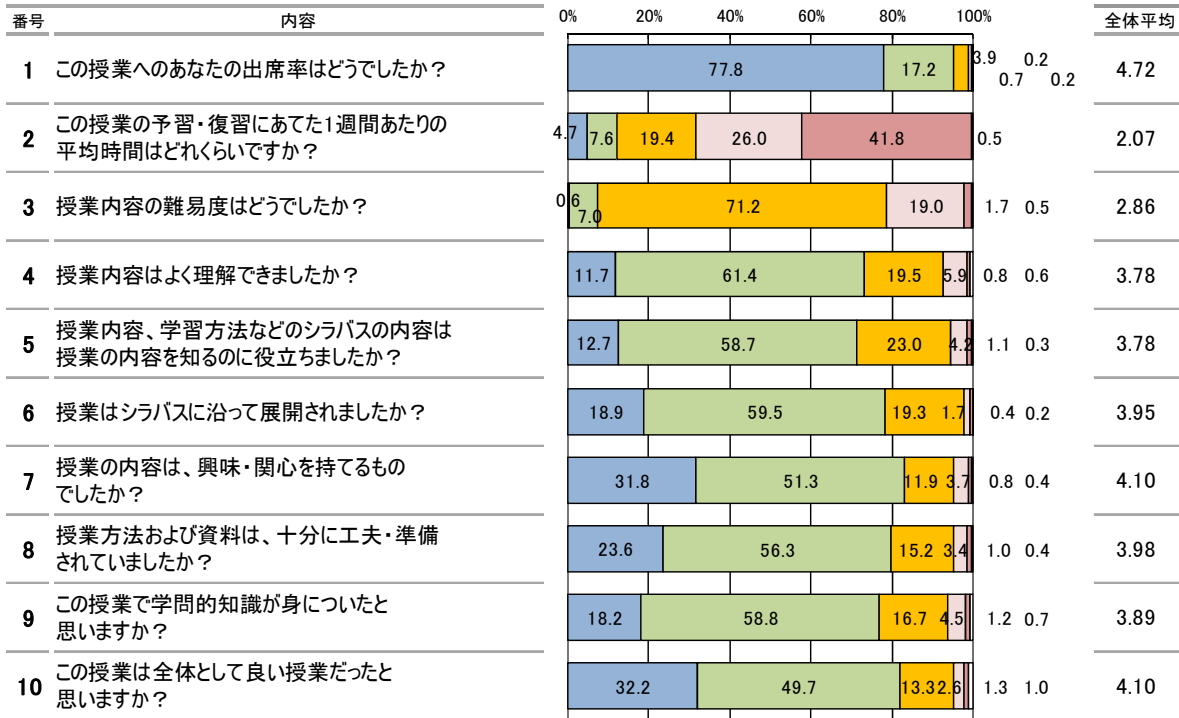
また、問 3「授業の内容の難易度はどうでしたか？」に対しては「適切」であるとの回答が 71.2%、シラバスについての問 5「授業内容、学習方法などのシラバスの内容は授業の内容を知るのに役立ちましたか？」に対しては 58.78%が「そう思う」と回答している。いずれも 2013 年以降徐々に改善傾向にある。問 6「授業はシラバスに沿って展開されましたか？」に関しては「そう思う」の割合は 59.5% (2015 年前期 59.9%)、問 8 の「授業方法および資料は、十分に工夫・準備されていましたか？」は 3.95 (2015 年前期 3.81)、問 9 の「この授業で学問的知識が身についたと思いますか？」は 3.89 (2015 年前期 3.77) と、すべての項目について改善されており、適切な授業運営が実施されていると判断される。

以下より、2016 年度前期の授業改善アンケートの結果の詳細を示す。

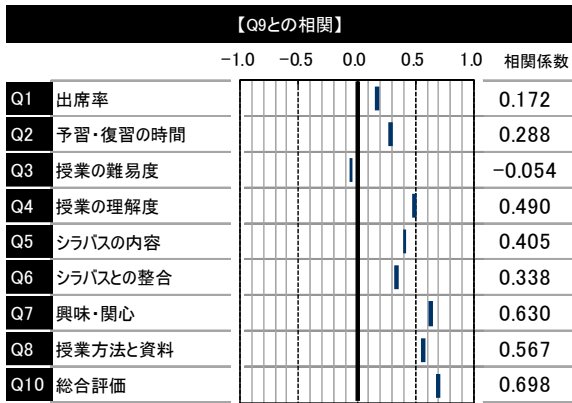
※学系別集計については以下のように集計している。

- ・自由回答項目については除かれ、選択式の設問について集計されている。
- ・学系別集計は、学部科目については各科目が属するカテゴリーごとに集計を行った。大学院科目については、回答数が少ない学系があるため一括して集計を行った。
- ・豊中キャンパスで開講される基礎科目は、行動、社会・人間、教育、G 共生科目に割り振られている。
- ・学系の共通科目は、学系別集計に含めていない。
- ・各学系によって 1 科目あたりの受講者数などの状況が異なるため、科目群間でアンケート結果を単純に比較できない点に留意する必要がある。

全体集計	履修者数	2776
	回答数	1944
	回答率	70.0%

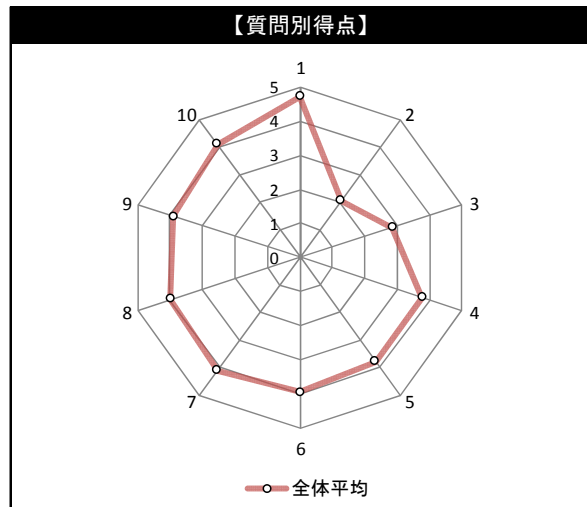
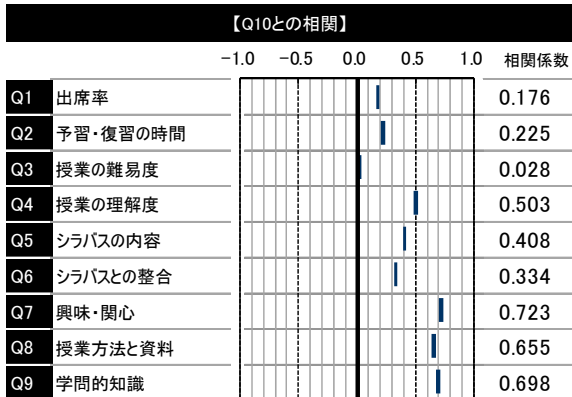


グラフ内数字は回答率(%)



回答凡例	5	4	3	2	1	-
配点	5	4	3	2	1	-
質問1	80%以上	60~80%	40~60%	20~40%	20%以下	
質問2	3時間以上	1.5時間~3時間	30分~1.5時間	30分未満	ほとんどなし	
質問3	難しすぎる	やや難しい	適切	やや易しい	易しすぎる	
質問4~9	強く思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全くそう思わない	不明(無回答を含む)
質問10	非常に良かった	まあ良かった	普通	良くなかった	良くなかった	

相関係数は±1に近いほど関係が強く、0に近いほど弱いことを意味します。プラスは正の相関関係、マイナスは負の相関関係です。総合評価であるQ9とQ10ほどの項目と関係が深いのか、授業の何を改善すればよいかの参考値として下さい。相関係数の「-」は計算不能を示します。(例: 回答者全員が同じ回答、回答データが1件のみなど)

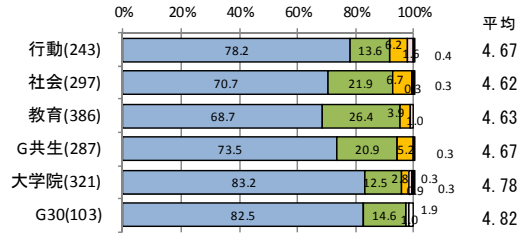


学系別集計

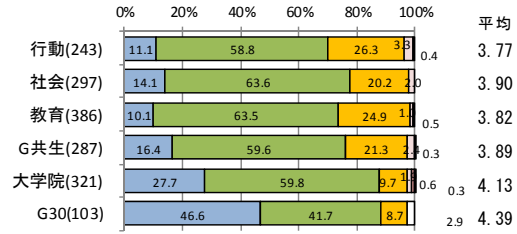
※グラフ内数字は回答率 (%)

回答凡例	5	4	3	2	1	-
配点	5	4	3	2	1	-
質問1	80%以上	60~80%	40~60%	20~40%	20%以下	
質問2	3時間以上	1.5時間~3時間	30分~1.5時間	30分未満	ほとんどなし	
質問3	難しすぎる	やや難しい	適切	やや易しい	易しすぎる	不明(無回答を含む)
質問4~9	強く思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全く思わない	
質問10	非常に良かった	まあ良かった	普通	あまり良かった	かなり良かった	

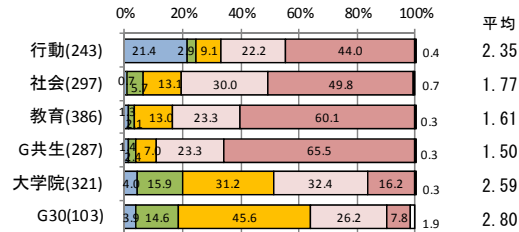
1. この授業へのあなたの出席率はどうでしたか？



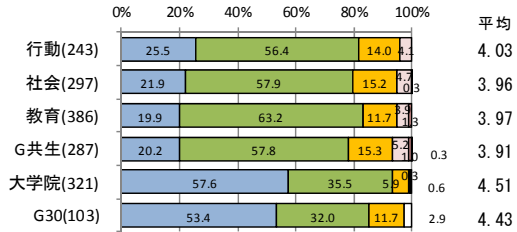
6. 授業はシラバスに沿って展開されましたか？



2. この授業の予習・復習にあてた1週あたりの平均時間はどれぐらいですか？



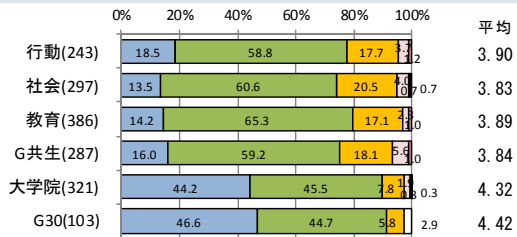
7. 授業の内容は、興味・関心を持てるものでしたか？



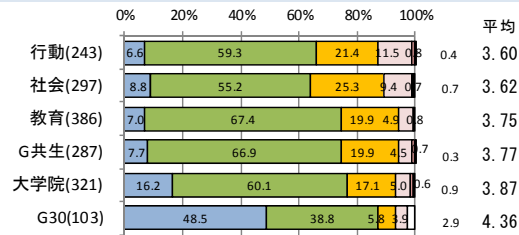
3. 授業内容の難易度はどうでしたか？



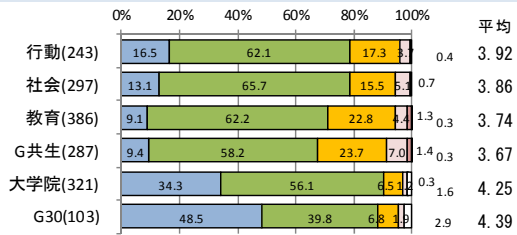
8. 授業方法および資料は、十分に工夫・準備されていましたか？



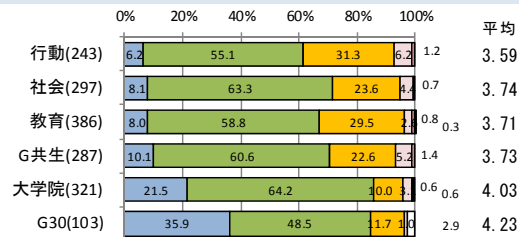
4. 授業内容はよく理解できましたか？



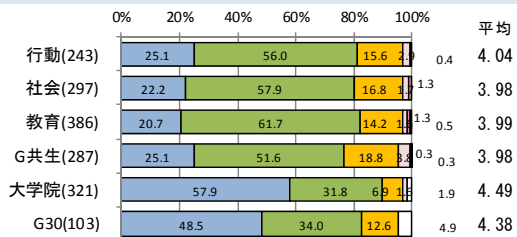
9. この授業で学問的知識が身についたと思いますか？



5. 授業内容、学習方法などのシラバスの内容は授業の内容を知るのに役立ちましたか？



10. この授業は全体として良い授業だったと思いますか？



<満足度上位の科目>

問 10 より、満足度の結果を示す（有効回答数が 10 以上の科目のみ）。平均値が高いほど受講生の満足度が高いことを意味する。アンケート対象科目 126 科目のうち、回答数が 10 以上の科目は 60 科目であり、平均値 4.10 を上回ったのは 32 科目であった。

**2016 年度前期講義科目
満足度上位の科目一覧**

【学部】

	科目名	有効回答数	問 10 平均値
1	グローバル化と文化	32	4.63
2	実践的文化交流 I	16	4.63
3	社会心理学	16	4.63
4	Peace and Conflict Studies I	12	4.58
5	国際フィールドワーク論 II	11	4.45
6	国際社会開発論 I	26	4.42
7	Popular Culture in Japan	15	4.40
8	学校経営学	34	4.35
9	学習生理学	13	4.31
10	動態地域論 I	13	4.31

【大学院】

	科目名	有効回答数	問 10 平均値
1	比較社会学特講	10	5.00
2	共生社会論特講 III	11	4.82
3	比較福祉論特講 II	27	4.78
4	コンフリクトと共生特講 I	16	4.75
5	臨床死生学・老年行動学特講 I	15	4.73
6	環境行動学特講 III	16	4.69
7	比較文明学特講	11	4.64
8	日本教育史特講	12	4.58
9	社会保障政策論特講 I	11	4.55
10	文化社会学特講	14	4.50

3-3.【2016 年度 前期】担当教員からのコメント

以下は、授業改善アンケート対象科目（ただし、基礎科目は除く）について、担当教員がアンケート結果も含めて授業を振り返ったコメントの一覧である。

篠原 一光	人間科学学際研究特講
<p>教員コメント</p> <p>⇒今年度より新たに開講した科目であり内容もこれまでにないものだった。「安全・安心」について様々な話題に触れることができた、グループワークで他の専門の大学院生と交流できたという評価がある一方で、内容的に不満を感じる受講生も多かった。人間科学研究科のポリシーに基づく重要な内容を扱う科目ではあるが、多様な受講生が関心を持てる内容を設定するのが難しい科目だということを実感した。来年度の実施に向けて、内容、授業の実施方法等様々な改善が必要だと認識している。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒新開講科目のため該当なし。</p>	

中村 安秀	多文化医療通訳概論
<p>教員コメント</p> <p>⇒昨年に引き続き、人間科学研究科だけでなく、保健学科、言語文化研究科など、他の学部からも参加いただき、ありがとうございました。グループディスカッションや論文発表なども有意義と考えていただき、ありがとうございました。</p> <p>現場の医療通訳士からもっと聞けるといいという意見がありましたが、現場の医療通訳士の方々には、医学部における後期「医療通訳実践論」の講義で取り扱うことになっています。そちらも受講してもらえると嬉しいです。</p> <p>統計データの使い方だけでなく、自分で統計データを調べられるような講義をしてほしいという要望がありましたが、人間科学研究科の社会学などの講義で、じっくりと勉強してください。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒ワークショップの回数を増やした。また、昨年に引き続き、レポート発表を冊子型にまとめて、活用しやすいように工夫した。</p>	

白川 千尋	コンフリクトの人文特講 I・コンフリクトの人文特別講義 I
<p>教員コメント</p> <p>⇒全体平均とほぼ変わらない結果だったが、「コンフリクトの人文特別講義 I」の方に関して、予習・復習にあてた時間が全体平均よりも少ない結果が出たため、授業中に受講生に対して授業内容の理解度を問う機会を増やすなどして、受講生が予習・復習により積極的に取り組むような工夫を行いたい。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒この授業は今年度初めて担当したため、とくになし。</p>	

Don Bysouth	人間科学特殊講義 I(Qualitative Research Methods)
<p>教員コメント</p> <p>⇒Thank you for the favorable evaluations! It was pleasing to see that the changes to assessment (i.e., the assessment tasks have been reduced over the last few years due to student feedback) have been well received.</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒I will continue to introduce new topics and methodological reviews based on student needs and previous experiences. The past few years students have wanted the focus to be on analyses of interview data, but recently there has been a desire for 1) more focus on interactional analyses, and 2) more examinations of textual materials (i.e., utilizing forms of discourse analysis).</p>	

安元 佐織	人間科学特殊講義 III
<p>教員コメント</p> <p>⇒本年度から開講された講義でしたが、トピックに興味を持って受講してくれた学生さんが真剣に高齢社会に纏わる様々な課題について議論してくれました。分野が異なる学生さんが受講してくれたこともあり、受講生が互いに学び合うことができる授業だったように思いました。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒</p>	

中道 正之	人間科学概論
<p>教員コメント</p> <p>⇒今年度から人間科学部1年生を対象として開講された必修科目であり、世話役の私(中道)、さらに、各学科目からの教員を含め、6人でシラバスを作成し、授業に臨んだ。新入生に人間科学とは何か、人間科学をどのように学ぶのかなどを教示しながら、人間科学の学際性を実感してもらうことを目的とし、[living-together]をキーワードとする授業内容を作成し、授業中のグループ討議、人間科学研究科の大学院生との対談、人間科学研究科の教員に執筆してもらった読んでほしい本の冊子「私の1冊」の配布と読書後の討論、さらには、研究倫理に関する議論なども行った。学生からの評価は、従来の類似科目よりは高い評価で、全体平均よりも高かったことで、初期の最低限の目標は達成できたと考えている。</p> <p>しかし、例えば、グループ討議の課題がやや具体性に欠ける場合や、レポート執筆にはより具体的な指示をすべきであった、などの反省点も多々確認している。次年度に向けて、教員間での振り返りと同時に、今年度の受講生のコメントも大いに参考にして、改善を目指したい。</p>	
<p>昨年度からの改善点⇒</p>	

権藤 恭之	心理学実験
<p>教員コメント</p> <p>⇒本科目は、心理学実験に関わる5つの課題に対してそれぞれのレポートの提出を義務としている。これまで、レポートの提出を負担と感じている学生の声を多く聞いてきたので、近年は授業内容を平易なものにする方向で改善してきた。提出されたレポートは、担当の教員およびTAにより丁寧に添削をしており、指導に従って修正すれば、最低限の体裁は整える合格点に達することが可能であるように組み立てている。</p> <p>しかし、アンケート結果を見ると内容が平易だと感じている学生が多いことがわかったので、来年度からは、レポート執筆において、定型で対処できる部分を減らし、より受講者が考えなければならないように変更していく必要があると考える。</p> <p>また、実験に際しても、これまで一部の受講者は課題内容に創造力を発揮するものもいたが、今後はすべての受講者が創造性を発揮できるような内容に変更する方向で調整する。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒班別に行っている実験の内容を、基本的な枠組みから外れなければ独自にアレンジをして実施することを可能とした。</p>	

山中 浩司	社会環境学概論
<p>教員コメント</p> <p>⇒オムニバス形式の授業で例年授業評価については他の単独の講師が行う授業と比較して印象が散漫であることは否めませんが、今年度は、担当教員の分野を限定したため、多少扱う問題を絞れたかと思います。</p> <p>全体に、昨年度よりいずれの項目についてもアンケート結果はかなり改善しており、内容をある程度限定することが学生の理解にとっても良好な結果をもたらすことがわかりました。ポートフォリオシートの記載も熱心な受講生が多く、一定の成果はあったと考えます。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒担当教員の研究分野をある程度昨年度より限定しました。学生とのコミュニケーションを増やすように担当教員に意識してもらいました。</p>	

佐々木 淳	臨床教育学概論
<p>教員コメント</p> <p>⇒アンケートから、興味・関心をもてた人ほど学問的知識が身についたと感じたり、授業に満足できているということが読み取れました。ただ、9割以上の学生さんは難易度が適切であると感じているものの、予習・復習に使った時間において、課題が見られたようです。来年度から別の授業に再編されますが、課題を教員間で共有しておこうと思います。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒昨年度と同様、同じ研究分野からの講義をなるべく連続で聴けるように配慮した。</p>	

河森 正人	地域研究概論
<p>教員コメント</p> <p>⇒TAの役割を明確にしたほうがよいとの要望があったので、今後改善したい。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒オムニバスの形態はわかりませんが、あらたな教員に加わってもらい、内容を新しくしました。</p>	

中道 正之	霊長類心理学・比較行動学特講 II
<p>教員コメント</p> <p>⇒授業の満足度に関する項目の評価が、昨年度より若干低下しましたが、全体平均よりは高い値であったことで、安堵しています。授業中に、学生からの意見を積極的に聞くように、質問項目をいろいろと準備して臨んだが、授業が進むにしたがって、意見を述べる人が限定されてきた気がする。受講生が広く、積極的に参加できる雰囲気作りが必要と感じています。授業中に、学生同士での意見交換についても、同様の傾向が見られました。授業回数が進むにつれて、意見交換しない人も出てきましたので、この点に対応できる工夫の必要性を感じています。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒昨年度同様に、双方向授業を加速するために、質問事項などを準備するようにして授業に臨んだ。</p>	

足立 浩平	推測統計科学
<p>教員コメント</p> <p>⇒教科書の難易度を下げたにも関わらず、その内容はやや難しかったと判断され、できるだけ平易に解説できるように努めた。しかし、受講者には細部で理解不可能な部分が残ったと考えられ、そうした理解不可能な部分は、気にしないで良いと考えられる。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒教科書を難易度がより低く、かつ、人間科学部の研究で使える主題に限定したものに代えた。</p>	

中野 良彦	行動形態学・生物人類学特講 I
<p>教員コメント</p> <p>⇒講義形式であり、受講者に理解しやすい内容とするようにしたので、授業の難易度は低くなったと思う。その分、内容の理解度や知識の習得に関しては高めの回答になったのではないだろうか。</p> <p>自由記述で、進行が早いとの意見があったが、シラバス通りの進行を考えるとそうなってしまった感がある。今後は、シラバスの内容をふまえて、ある程度、柔軟に進行具合を考えていきたい。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒授業を理解しやすくするため、一部を一般的な内容に変更した。</p>	

日野林 俊彦	比較発達心理学
<p>教員コメント ⇒自分の研究を平易に紹介しようと考えたが、テーマが偏りすぎて受講者の理解に到達できなかったのかと反省しています。パワーポイントの内容を配布する頻度も足りなかったと思います。</p>	
<p>昨年度からの改善点 ⇒パワーポイントの内容を配付するようにした。</p>	

入戸野 宏	認知心理生理学・基礎心理学特講 I
<p>教員コメント ⇒初めて開講する授業であり、やや高度な内容を設定した。そのため高学年者の評価が高く、低学年者の評価が低いという結果になった。学部生は、授業内容を全体平均よりも易しいと評価する一方で、理解度は全体平均よりも低かった。これは授業そのものは平易に実施されていたが、学習者の基礎知識が足りないため、十分に理解できた感覚が持てなかったからだと思われる。そのため、次年度は課外学習を取り入れることにより、基礎知識を向上させたいと考えている。</p>	
<p>昨年度からの改善点 ⇒今年度から開講した。</p>	

八十島 安伸	学習生理学・行動生理学特講 I
<p>教員コメント ⇒本講義は、さまざまな行動に伴っている学習についての神経メカニズムを紹介しました。受講生から「学問的知識を身についた」という点では概ね高評価であったので、今後も受講生の頭脳を刺激できるような授業にしていきたいと思います。</p>	
<p>昨年度からの改善点 ⇒今年度は昨年度の「行動生理学」から取り入れたレポートと毎回の問題作成を課しました。問題作成から、教員の立場ではない受講生視点からの疑問を講義でも取り上げることができ、それが補完的に働いたと思います。今後も当分これらの活動を続けていきます。</p>	

佐藤 眞一	高齢者行動論・臨床死生学・老年行動学特講 I
<p>教員コメント ⇒2名の教員によるオムニバス授業であった。教員は互いに内容が重ならないように打ち合わせてから授業を行ったが、一部の授業内容が他の授業と重複する部分があるとの指摘があったので、教員間で検討して改善したい。理解度、難易度等は概ね問題が無いようだったが、パワーポイントファイルの多さ、展開スピードの速さによって、理解が追いつかないとの回答もあったので、この点も教員間で検討して、パワーポイントの資料を配付するなどの対応を取りたい。本年度も学生の予習・復習の時間が少なかったので、コメントペーパーへの記入を行い、次の授業でそれに対するコメントをすることによって、復習を促した。</p>	
<p>昨年度からの改善点 ⇒コメントペーパーへの教員からのコメントを次の授業で実施し、学生の意見を発表させるなどの工夫をした。また、最新の参考書を紹介した。</p>	

Robert Scott North	比較社会学・比較社会学特講
<p>教員コメント</p> <p>⇒I am grateful to all the students who took this class in 2016. They were generally engaged with the readings and they brought their thoughts and ideas to the classroom discussions. It was a tough semester for me and their participation in the course brightened my days.</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒Students did not suggest many improvements so I will probably carry on as before. However, I need to keep the course interesting for me and so the themes will likely reflect my current research interests. In that sense, the content is likely to shift a bit.</p>	

村上 靖彦	哲学的人間学・哲学的人間学特講
<p>教員コメント</p> <p>⇒内容そのものについては概ね良い評価を頂いたと思いますが、自宅学習への配慮が不足しているのが反省点です。今後、対応を考えます。</p>	
<p>昨年度からの改善点⇒</p> <p>方法論の解説に時間をさきました。</p>	

中山 康雄	言語・情報論・言語・情報論特講
<p>教員コメント</p> <p>⇒今年度は、質問紙を授業の終わりに提出してもらい、これを評価の一部に組み込んだため、出席率の向上が見られた。また、授業の中でこれらの質問に答えたため、双方向のコミュニケーションに関する向上が見られたと感じている。ただし、授業評価の面では残念ながら高い評価は得られなかった。今後も改善点を探っていきたい。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒今年度は、質問紙を授業の終わりに提出してもらい、これを評価の一部に組み込んだ。また、授業の中でこれらの質問に答え、双方向のコミュニケーションに関する向上を目指した。</p>	

遠藤 知子	比較福祉論 II・比較福祉論特講 II
<p>教員コメント</p> <p>⇒今年度は講義形式の授業で履修者が社会政策のテーマの争点と福祉国家をめぐる問題について複眼的に理解できるようになることを目指しました。福祉国家の概念や政策の考え方に関する抽象的な議論が多かったため、来年度は具体例をさらに取り入れて履修者の理解を向上させる工夫をしたいと思います。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒講義内容を補強するためにデータや参考資料を充実させた。</p>	

山中 浩司	文化社会学・文化社会学特講
<p>教員コメント</p> <p>⇒アンケート結果については概ね例年通りでした。後半の内容がやや難しいため、できるだけ受講生とのコミュニケーションをとりながら進めるようにした結果、学部生の難易度についての回答は改善したように思う。授業外での学習時間をどのように高めるかについては今後の課題としたい。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒後半部分の内容を学部生にもわかりやすく興味を持ちやすいように授業中の受講生とのコミュニケーションを多くとるようにした。</p>	

川端 亮	計量社会学・計量社会学特講
<p>教員コメント</p> <p>⇒この授業は、予習・復習が多く必要とされる授業なので、最後まで受講した学生があまり多くなかったことは残念であるが、学問的知識が身につく、満足度もまずまずなので、よかったのではないかと思う。授業内容の難易度は、「やや易しい」と答える人が半分近くおり、授業内容はよく理解できたかに対して「そう思う」と答えた人も半数いるが、教えた内容は決して易しいものではなかったため、これ以上難しくしてよいかどうか、迷うところである。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒前回（平成 26 年度）からの改善点は、TAを用いて、毎回の宿題をチェックし、添削、コメントを付けて返すようにしたことであるが、TAとのコミュニケーション不足な点もあり、今後、TAの使い方を改善する必要があると感じた。</p>	

鈴木 広和	文明動態学・文明動態学特講
<p>教員コメント</p> <p>⇒引き続き、よりよい授業を目指していきます。</p>	
<p>昨年度からの改善点⇒</p>	

白川 千尋	グローバル化と文化
<p>教員コメント</p> <p>⇒予習・復習にあてた時間が全体平均よりも少なかったため、授業中に受講生に対して授業内容の理解度を問う機会を増やすなどして、受講生が予習・復習により積極的に取り組むような工夫を行いたい。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒この授業は今年度初めて担当したため、とくになし。</p>	

志水 宏吉	学校社会学
<p>教員コメント</p> <p>⇒授業のスタイルを以下のように大きく変更したが、受講生からの評価はおおむね妥当なものであった。主体的な活動を期待するがゆえに、コミットメントの高い履修生とそうではない学生とのコントラストが例年以上に大きいように思われた。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒授業のスタイルを、講義形式からグループ発表形式へと大きく変えた。</p>	

志水 宏吉	教育文化学特講
<p>教員コメント</p> <p>⇒授業のスタイルを以下のように大きく変更した。そのせいか、受講生からの評価はかなり向上した。手ごたえのある学生たちからの反応を引き出すことができ、満足している。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒授業のスタイルを、講義形式からグループ発表形式へと大きく変えた。</p>	

小野田 正利	学校経営学・学校経営学特講
<p>教員コメント</p> <p>⇒授業内容は、単に教育学の問題にとどまらず、社会全体の構造的問題を扱っていること、同時に私も定年まで残すところ、あとわずかなので、今年から学部学生用にも提供する形で、この講義を実施した。学部生の履修者は、同一学年の約半数なので、かなりの関心をもってくれたと思う。</p> <p>評価であるが、授業者にとっていちばん気になるのが番号7、8、9、10であるが、いずれも全体平均を上回っていたので、いいように思う。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒受講者が増えた分、ワークショップはやりやすかったが、逆に進行状況の把握が難しくなったので、それをどう工夫するかが課題かなと思う。資料やデータも、できるだけ新しいものに取り替えた。</p>	

井村 修	臨床心理学 II
<p>教員コメント</p> <p>⇒授業評価としては平均的な水準にあると認識しました。予習をしている人としていない人で、授業の理解度に差があると思われます。特に、質問内容に表れているようです。受講生のプレゼンテーションのさせ方にも工夫すべき点があると感じました。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒昨年はTFの試行をしましたが、今年はSTAに戻りました。しかしTF同様に受講生の質問に答えてくれました。STAが授業に加わることで、受講生、STA、教員の質疑応答が深まるように感じました。</p>	

中澤 渉	教育社会学・教育社会学特講
<p>教員コメント</p> <p>⇒内容は精選したつもりだったが、リアクション・ペーパーに割く時間を十分に取れず、結果として内容を詰め込み過ぎという印象を与えてしまったようだ。来年は、自分で学習できそうなところは文献紹介などにとどめ、個人では理解が難しそうなところに重点を絞って講義して、リアクション・ペーパーなどを通じ（最低でも15分程度の時間を取る）、もう少し学生との相互作用ができないか、工夫してみたい。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒授業に向けての学習を促すため、リアクション・ペーパーや持ち帰り課題を増やし、それに対するコメントも授業で触れるようにした。</p>	

藤川 信夫	教育人間学 I・教育人間学特講 I
<p>教員コメント</p> <p>⇒大学院生には少し内容が簡単すぎたのかもしれない。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒シラバスとの対応については、ある程度改善できているのではないかと思う。</p>	

木村 涼子	ジェンダーと教育・ジェンダーと教育特講 (A)
<p>教員コメント</p> <p>⇒昨年に引き続き、教員と受講生、また受講生相互の交流をよりはかるために、ポートフォリオを活用して、感想・質疑応答をおこないました。受講生によるテーマ発表の時間も組み込んだ形式をとり、発表者にとっても、聞き手に回った学生にとっても、アクティブラーニングの機会となったと思います。反省点としては、映像視聴を行う際にうまく機器が作動しなかったり、受講生の皆さんに迷惑をかけた点、一回分のレジメの分量が多すぎて一部次回まわしとなったことがあった点などです。準備をより入念にしなければならないと考えています。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒昨年よりも拡大版のポートフォリオシートを用いて、受講生のプレゼンテーションの範囲を広げましたが、ほとんどの受講生が拡大した枠を十二分に活用してくれました。最後にはご本人に返却し、学習の記録となるようにしたことはよかったのではないかと考えています。</p>	

藤岡 淳子	人格心理学特講
<p>教員コメント</p> <p>⇒授業内容が「やや易しい」が半数を占めていた。みなさん優秀ですね。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒特になし。</p>	

野坂 祐子	教育心理学 II
<p>教員コメント</p> <p>⇒出席率も高く、多くの学生が興味をもって受講していてよかったです。授業ではできるだけグループワークを行い、受講者同士の意見交換の機会を設けるようにしました。お互いの意見から学べたことも多かったと思います。今年度は、映像や DVD などの視覚教材も用いたところ、資料に関して好評価が得られたので、引き続き活用したいと思っています。</p> <p>予習や復習はぜひ自主的にやってほしいところですが、こちらからも課題を提示するなどして自己学習に取り組みやすいように改善していきます。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒教材に映像や DVD など用いて、より学習が深まるよう工夫しました。理解度が高まったようでよかったです。</p>	

栗本 英世・山田 一憲	コンフリクトと共生特講 I
<p>教員コメント</p> <p>⇒この授業は、2名の教員が半年間一緒に講義をする、一方の教員が毎回1冊の本をレビューし、他方の教員がそれにコメントする、授業の最後は参加者全員で議論するという形式で進めました。取り上げた本は、生物学の理論、霊長類学、人類学など履修者の専門とは異なっており、教員にとってもチャレンジングな授業でしたが、授業評価アンケートの得点は高く、自由記述では授業内容と授業形式がポジティブに評価されていました。ある日の授業の中で、科学における「正しい」データの取り扱いについて、履修者と議論になり、私が必死になったことを強く覚えています。この授業では、教員同士がしっかり議論することも目指しています（栗本先生は「格闘技のような授業を目指す」とおっしゃっていました）。これからも履修者と教員が必死に議論できるような機会を少しでも増やしていきたいと考えています（文責・山田）。</p>	
<p>昨年度からの改善点⇒</p>	

河森 正人	動態地域論 II
<p>教員コメント ⇒予習復習をすることがあまりなかったとのコメントがあった。今後この点について改善するようにしたい。</p>	
<p>昨年度からの改善点 ⇒遠隔授業によって外国語学部の学生も聴講できるようにしました。</p>	

福岡 まどか	地域知識論 I
<p>教員コメント ⇒地域知識論 I の授業では、東南アジアの文化を通して異文化に対する関心を深めて、グローバル化する現代世界における地域固有の知のあり方を探求することを目指しています。今年度は、映像資料の充実を行い、また東南アジアだけでなく日本の事例も取り入れました。 回答の中では、授業に対する興味・関心の点でまだ課題が残っていると感じました。海外の事例から、私たちを取り巻く身近な問題を考えることができるように授業の展開方法を工夫する必要があると思います。また受講人数が増えてしまった関係で教室を変更したため、コンピューターから映像・音声が出せませんでした。映像資料の充実をはかったものの、その点は残念だったと思います。</p>	
<p>昨年度からの改善点 ⇒今年度の授業では、全体的な授業の展開の構成を考え直して、できるだけ受講生の皆さんが関心を持ちやすいモノ作りのプロセスや日本の文化に関する事例などを取り上げるようにしました。また映像資料も充実させました。</p>	

中村 安秀	国際協力学 I・国際協力学特講 I
<p>教員コメント ⇒全体として、外国人の学生の割合が高く、質の高い授業を行うことができた。日本人の学生も、ことしは英語力の高い学生が多く、活発な議論を楽しみながら、講義をすることができた。</p>	
<p>昨年度からの改善点 ⇒ことしは、早くにレポート発表のテーマを、「持続可能な開発目標 (SDG)」に定めた、学生諸君の、熱のこもったプレゼンテーションは、非常に有意義であった。</p>	

藤川 信夫	共生の人間学特講 I
<p>教員コメント ⇒大学院生には少し内容が簡単すぎたのかもしれない。</p>	
<p>昨年度からの改善点 ⇒昨年度は未開講</p>	

鈴木 広和	動態地域論 I
<p>教員コメント ⇒引き続き、よりよい授業を目指していきます。</p>	
<p>昨年度からの改善点 ⇒レポート課題を、より講義との関連性がはっきりしたものに変更しました。</p>	

岡田 千あき	国際社会開発論 I
<p>教員コメント ⇒授業に対するコメントをありがとうございました。多くの皆さんが意欲的に取り組んでくれましたので、いい授業ができたと思っています。外部講師の講演や映像資料の活用などが好評で、授業を通じて伝えたいことは伝わったのではないかと喜んでます。</p>	
<p>昨年度からの改善点 ⇒外部講師の講演が好評であったため、回数を増やしました。また、人間科学研究科の卒業生に講師をお願いするなど、皆さんにより近い距離で話ができるように工夫しました。</p>	

稲場 圭信	共生社会論特講 III
<p>教員コメント ⇒おおむねアンケート結果の通りの講義だったと思います。 学問的知識が身についた 4.71、全体として良い授業 4.86 だったので 共生学系の初年度の講義としては、よかったと思います。</p>	
<p>昨年度からの改善点 ⇒</p>	

中村 安秀	国際健康開発論特講
<p>教員コメント ⇒人間科学研究科および保健学科の院生と医学部4回生の交流のなかでの授業を、学際的な雰囲気楽しんでもらいました。医学部の学生はザンビアへのスタディ・ツアーがあるため、自分たちで調べたザンビアの話を発表し、NGOやJICA経験者から、直接にザンビアの状況を講義していただいた。</p>	
<p>昨年度からの改善点 ⇒学生の関心に添って、フレキシブルに授業を内容を変更できた。その意味では、ザンビアへのスタディ・ツアーという具体的な目標に向かって準備に余念がない学生には、有意義だったと考えられる。 ただ、「授業はシラバスに沿って展開したか」という点では、低い評価であったが、当然の結果であると自負している。</p>	

渥美 公秀	Disaster Prevention and International Cooperation
<p>教員コメント ⇒受講生は多くはないが、一人一人が極めて積極的に参加し、学び、考え、意見を述べてくれるので、スムーズに授業を進めることができた。ある程度、事例が積み重ねられ、また、理論的な定説も出ている分野については、それらを提示し、考えてもらって議論することができたが、現在進行中のこと(例えば、長期的な復興過程)については、事例の紹介と説明の可能性を示すに留まった。それだけ自由に議論ができたという印象もあるが、同時に、標準的な知識(それが無いことを学ぶことが大切ではあるはずなのだが・・・)が学べなかったという印象ももった学生がいたかもしれない。</p>	
<p>昨年度からの改善点⇒ 事例について、より実感をもって学んでもらえればと思っていたところ、期せずして熊本地震の発生を承け、その現場からの報告を毎回行った。受講生も様々なメディアを通じて関心を持っていたので、実感を伴った授業になった。</p>	

Robert Scott North	Comparative Theories of Society and Culture
<p>教員コメント</p> <p>⇒I am grateful to all the students who took this class in 2016. They were generally engaged with the readings and they brought their thoughts and ideas to the classroom discussions. It was a tough semester for me and their participation in the course brightened my days.</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒Students did not suggest many improvements so I will probably carry on as before. However, I need to keep the course interesting for me and so the themes will likely reflect my current research interests. In that sense, the content is likely to shift a bit.</p>	

CAVALIERE Paola	Special Topic in Human Sciences IIA(Women and Religion in Contemporary Japan)
<p>教員コメント</p> <p>⇒I designed the course in a seminar-style, with students contributing with presentations and reading reviews. I enjoy teaching this topic since it is my specialty and I think students also enjoyed the content at discussion.</p>	
<p>昨年度からの改善点⇒</p>	

安元 佐織	Sociology of Knowledge
<p>教員コメント</p> <p>⇒抽象的な概念についての講義が中心のチャレンジングな授業だったと思いますが、受講生の学生さんは難しい課題にも真剣に取り組んでくれて、意義のあるディスカッションが持てる授業でした。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒英語が苦手な学生さんも受講してくれるので、映像や画像を増やすことによって、視覚的に抽象的概念の理解が高まるような工夫をしています。</p>	

中村 安秀	International Development and Collaboration I
<p>教員コメント</p> <p>⇒Thank you very much for your evaluation.</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒I asked students to make reports on SDGs much earlier than last year. The presentations by the students were very attractive, because they have a much more time to prepare the presentations</p>	

Viktoriya KIM	Special Topic in Human Sciences IA(Sociology of Migration)
<p>教員コメント</p> <p>⇒I appreciate that you were actively participating in discussions, expressing your opinions in class and after it. The course also included many written assignments and individual research, and it was great that you did your best doing those.</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒</p>	

CAVALIERE Paola	Social Stratification in Japanese Society
<p>教員コメント ⇒ I enjoyed teaching this class and students were participating actively in discussion and with presentations.</p>	
<p>昨年度からの改善点⇒</p>	

Don Bysouth	Popular Culture in Japan
<p>教員コメント ⇒It was very pleasing that students evaluated the course favorably. As the course was a new course I will continue to explore ways in which to 1) utilize novel teaching methods, and 2) select interesting topics and materials to cover. In addition, the response to the form of assessment (i. e., students select the assessment they will undertake) was very positive, so this will continue for future course delivery.</p>	
<p>昨年度からの改善点 ⇒This year was the first time the course was taught by me - so no information on changes!</p>	

Viktoriya KIM	Seminar in Studies of Multicultural Societies
<p>教員コメント ⇒I appreciate that you were actively participating in discussions, expressing your opinions in class. The course also included many written assignments and presentations, and it was great that you could complete all of those.</p>	
<p>昨年度からの改善点 ⇒</p>	

中村 安秀	医療通訳論 I+医療通訳論 II
<p>教員コメント ⇒医療通訳論 I・II ともに、非常に高い評価をいただき、ありがとうございます。米国医療通訳士協会（IMIA）の講師の先生方も、この集中講義のために、わざわざ来日してくれています。</p>	
<p>昨年度からの改善点 ⇒医療通訳論 II は、多くの参加者（全員が中国人留学生）が受講した。医療通訳論 I は登録した学生の半分以下しか受講しなかった。キャンセルした学生は日本人が多く、夏休み中で大阪を離れていた学生が多かったことも要因として挙げられた。</p>	

3-4.【2016 年度 後期】授業アンケートの概要

人間科学研究科では、2004 年度より、毎学期末に授業に関して受講生に尋ねるアンケートを実施している。2010 年度後期より KOAN 上でのアンケートになったが、2014 年度前期以降、再び授業内でマークシート用紙を配布・回収する方式に変更した。今年度の実施期間は以下の通りである。

2016 年度後期アンケート回答期間：2016 年 1 月 10 日～2 月 14 日

対象科目は、人間科学部・人間科学研究科で実施されている講義科目である。対象科目数・回答数と科目群ごとの内訳は、以下の通りである。受講登録者数に対する回収率は 69.7%であった。(2015 年度後期：67.8%)

2016 年度後期授業改善アンケート 対象科目数・回答数

		対象 科目数	回答数
学部科目	共通科目	1	12
	行動系科目	13	633
	社会・人間系科目	11	478
	教育系科目	11	480
	G 共生系科目	3	153
	その他	3	23
大学院科目		31	163
G30 科目		17	90
計		90	2032

回収数 2032 / 受講登録者数 2917 = 回収率 69.7%

- ※1 基礎科目は、行動、社会・人間、教育、G 共生系科目に割り振られている。
- 2 受講登録者数は、アンケートが実施された科目についての数値である。

回収結果は数値化して集計し、自由記述分も含めて教員にフィードバックされている。2010 年度後期より、授業担当教員からアンケート結果を踏まえて授業の振り返りのコメント、さらに、2015 年度からは、授業担当教員による昨年度からの改善点についてのコメントの提出を求めており、次回の授業の改善に役立てられている。

3-5.【2016 年度 後期】授業アンケートの結果

2016 年度後期の授業改善アンケートの回収率は 69.7%であり、マークシート方式が採用された 2014 年度以降、例年 70%前後を推移している（2014 年度前期 70.1%/後期 68.5%、2015 年度前期 67.8%/後期 67.8%、2016 年度前期 70.0%）。

主要な質問項目である、授業の満足度についての問 10「この授業は全体として良い授業だったと思いますか？」（1～5 の範囲で数値が高いほど高評価を意味する）については 3.97 であり、学生の授業への満足度は高い値を示している。学系別集計によれば、学部科目中とりわけ G30 科目の値が 4.31 と突出しており、学生の 51.1%が「非常に良かった」と回答している。

満足度に関する問 10 以外の質問項目の概要は、以下の通りである。

問 1 の「この授業へのあなたの出席率はどうでしたか？」に関しては、「80%以上出席」が 77.0%と、2015 年後期の 71.9%から 5%以上増加した。また、問 2 の「この授業の予習・復習にあてた 1 週間あたりの平均時間はどれくらいですか？」に関しては、「ほとんどなし」と回答したのが 56.4%となっており、41.8%まで改善された前回の調査（2016 年前期）から再び高い値となっている。2015 年度後期の 64.4%と比べるとやや改善傾向にあるともいえるが、依然として半数以上の学生が予習・復習をほとんどしていないというのは問題であるだろう。自宅での自主学習については、前期と後期、あるいは授業の形態に左右される面も多いが、授業外での自主学習を促す工夫がさらに必要である。問 4 の「授業内容はよく理解できましたか？」の全体の平均値は 3.78 であり、2015 年度後期 3.55 からわずかに上昇した。とはいえ、30%ほどの学生が「そう思わない」「まったくそう思わない」と回答しているため、授業についてきていない学生を考慮する必要があるかもしれない（2015 年度後期 35%、2016 年度前期は 26%）。

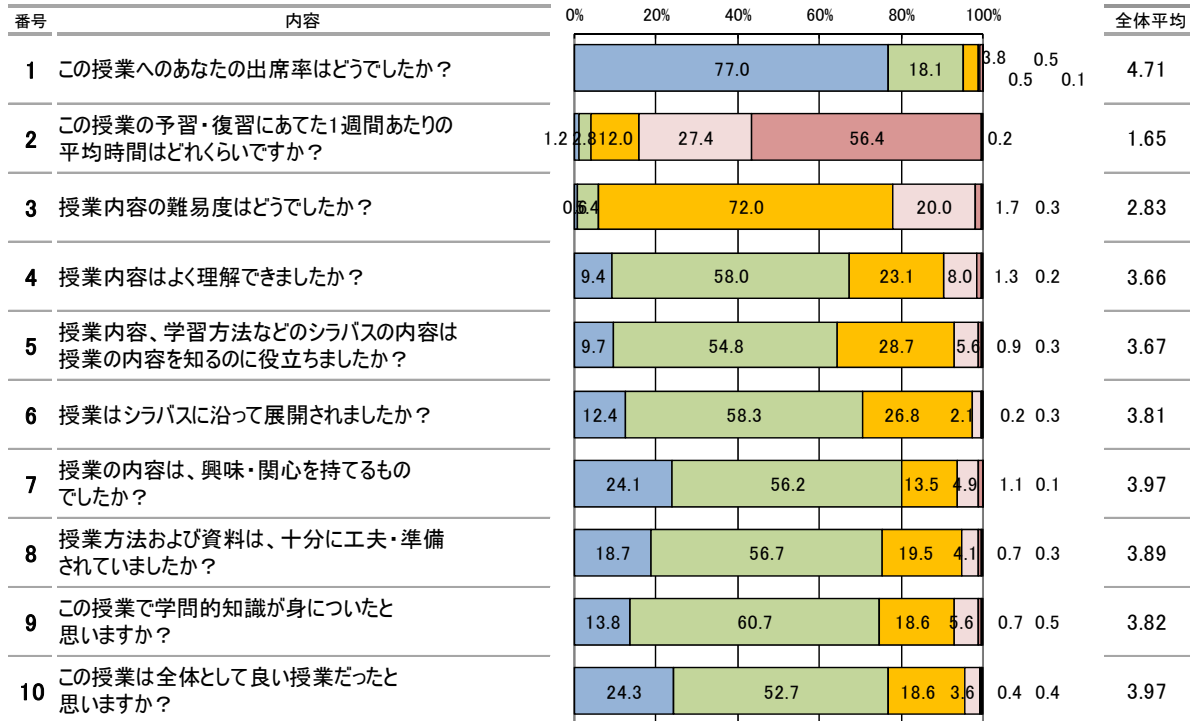
また、問 3「授業の内容の難易度はどうでしたか？」に対しては約 7 割以上が「適切」であると回答している。シラバスについて問 5「授業内容、学習方法などのシラバスの内容は授業の内容を知るのに役立ちましたか？」に対しては 54.8%が「そう思う」と回答しており、いずれも例年通りの値である。問 6「授業はシラバスに沿って展開されましたか？」に関しては「強くそう思う」12.4%、「そう思う」58.3%であることから、シラバスに即した授業運営が実施されていると言える。問 8 の「授業方法および資料は、十分に工夫・準備されていましたか？」は 3.89 とほぼ例年通りであり（2015 年前期 3.81/後期 3.78、2016 年度前期 3.98）、問 9 の「この授業で学問的知識が身についたと思いますか？」は 3.82 と、前期 3.75 と同様に一貫して高い値となっていた。

以下より、2016 年度後期の授業改善アンケートの結果の詳細を示す。

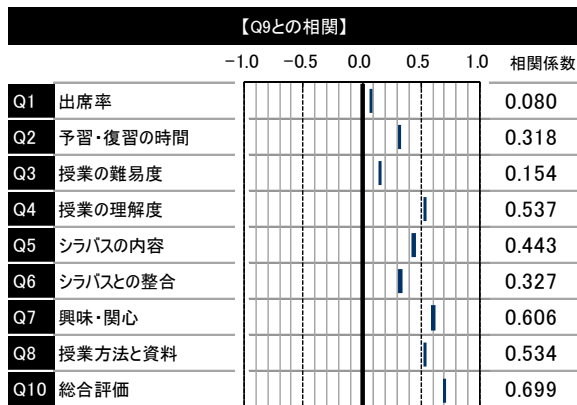
※学系別集計については以下のように集計している。

- ・自由回答項目については除かれ、選択式の設問について集計されている。
- ・学系別集計は、学部科目については各科目が属するカテゴリーごとに集計を行った。
大学院科目については、回答数が少ない学系があるため一括して集計を行った。
- ・豊中キャンパスで開講される基礎科目は、行動・社会人間・教育・G 共生科目に割り振られている。
- ・学系の共通科目は、学系別集計に含めていない。
- ・各学系によって 1 科目あたりの受講者数などの状況が異なるため、科目群間でアンケート結果を単純に比較できない点に留意する必要がある。

<h1>全体集計</h1>	履修者数	2917
	回答数	2032
	回答率	69.7%

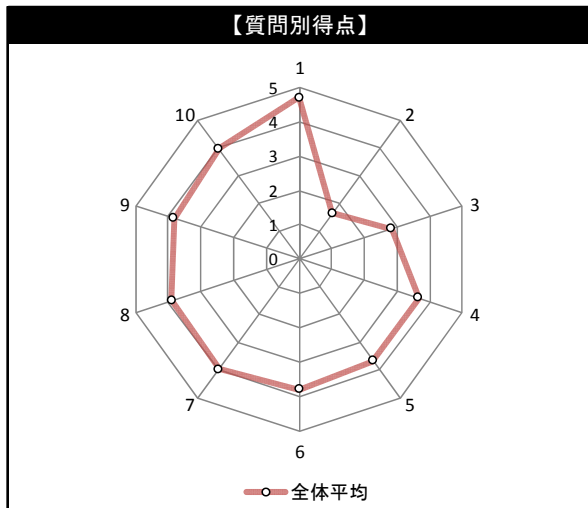
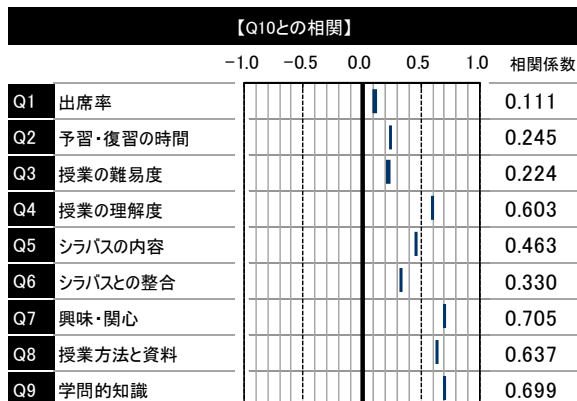


グラフ内数字は回答率(%)



回答凡例	5	4	3	2	1	-
配点	5	4	3	2	1	-
質問1	80%以上	60~80%	40~60%	20~40%	20%以下	
質問2	3時間以上	1.5時間~3時間	30分~1.5時間	30分未満	ほとんどなし	
質問3	難しすぎる	やや難しい	適切	やや易しい	易しすぎる	
質問4~9	強く思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全く思わない	不明(無回答を含む)
質問10	非常に良かった	まあ良かった	普通	あまり良くなかった	かなり良くなかった	

相関係数は±1に近いほど関係が強く、0に近いほど弱いことを意味します。プラスは正の相関関係、マイナスは負の相関関係です。総合評価であるQ9とQ10はどの項目と関係が深いのか、授業の何を改善すればよいのかの参考値として下さい。相関係数の「-」は計算不能を示します。(例：回答者全員が同じ回答、回答データが1件のみなど)

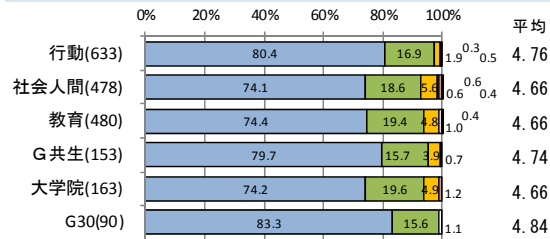


学系別集計

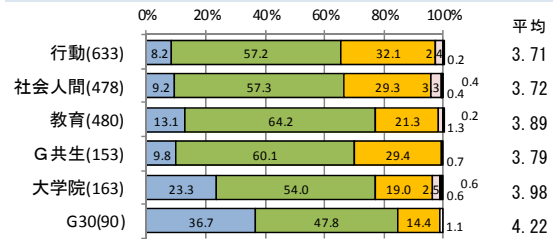
※グラフ内数字は回答率 (%)

回答凡例	5	4	3	2	1	-
配点	5	4	3	2	1	-
質問1	80%以上	60~80%	40~60%	20~40%	20%以下	
質問2	3時間以上	1.5時間~3時間	30分~1.5時間	30分未満	ほとんどなし	
質問3	難しすぎる	やや難しい	適切	やや易しい	易しすぎる	不明(無回答を含む)
質問4~9	強く思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全く思わない	
質問10	非常に良かった	まあ良かった	普通	良くなかった	あまり良くなかった	

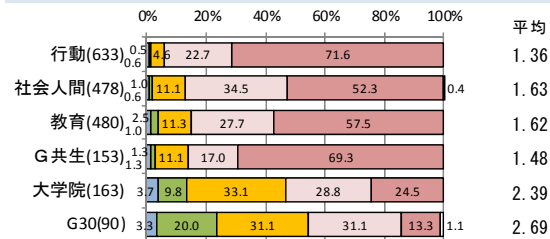
1. この授業へのあなたの出席率はどうでしたか？



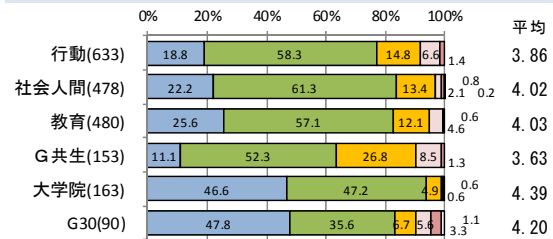
6. 授業はシラバスに沿って展開されましたか？



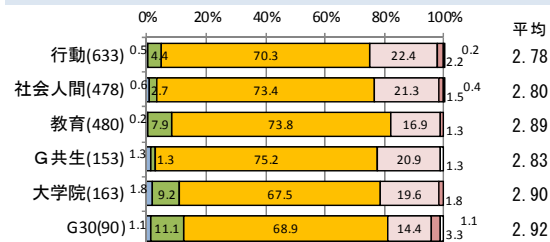
2. この授業の予習・復習にあてた1週あたりの平均時間はどれくらいですか？



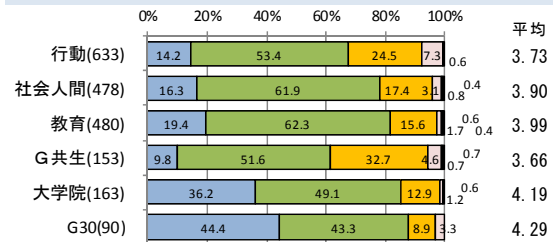
7. 授業の内容は、興味・関心を持てるものでしたか？



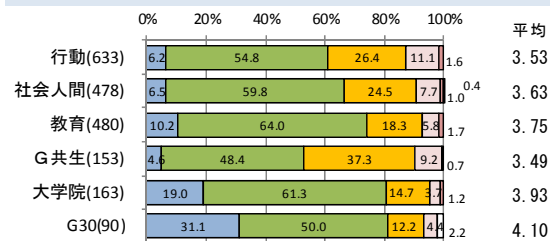
3. 授業内容の難易度はどうでしたか？



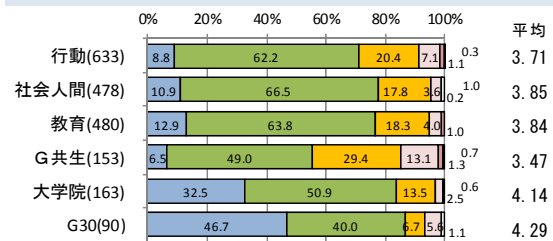
8. 授業方法および資料は、十分に工夫・準備されていましたか？



4. 授業内容はよく理解できましたか？



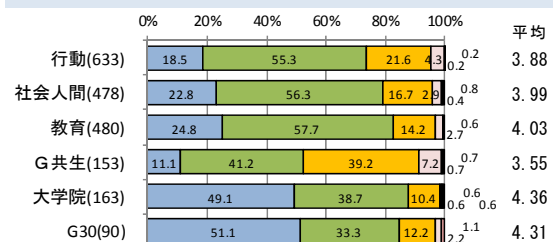
9. この授業で学問的知識が身についたと思いますか？



5. 授業内容、学習方法などのシラバスの内容は授業の内容を知るのに役立ちましたか？



10. この授業は全体として良い授業だったと思いますか？



<満足度上位の科目>

問 10 より、満足度の結果を示す（有効回答数が 10 以上の科目のみ）。平均値が高いほど受講生の満足度が高いことを意味する。アンケート対象科目 88 科目のうち、回答数が 10 以上の科目は 44 科目であり、平均値 3.97 を上回ったのは 26 科目であった。

**2016 年度後期講義科目
満足度上位の科目一覧**

	科目名	有効回答数	問 10 平均値
1	社会心理学特講 II	10	4.67
2	コミュニケーション社会学	61	4.60
3	基礎心理学	28	4.47
4	Diplomacy, Economics and Politics in Japan	13	4.43
5	教育コミュニケーション学 I	11	4.42
6	Special Topic in Human Sciences II (Research Design Seminar)	55	4.36
7	教育心理学 I	45	4.33
8	教育工学 I	24	4.31
9	経験社会学	11	4.31
10	社会科・公民科教育法B	15	4.25
11	臨床心理学 I	45	4.24
12	人類学理論	29	4.23
13	比較福祉論 I	38	4.17
14	International Development and Collaboration II	15	4.15
15	共生教育学	70	4.15

3-6. 【2016 年度 後期】担当教員からのコメント

以下は、授業改善アンケート対象科目（ただし、基礎科目は除く）について、担当教員がアンケート結果も含めて授業を振り返ったコメントの一覧である。

佐藤 眞一	行動学概論
<p>教員コメント ⇒学部1年生の行動学の入門科目で、研究分野の異なる6名の教員がオムニバスで実施した。学生からの意見や要望をみると、オムニバス授業のため、担当教員によって方法や資料提供が異なり、難易度にもバラツキがあるため、評価が分かれたようである。配付資料については、学生の理解度が高まり、興味を深めるために再考したい。来年度は、担当教員や授業内容を見直し、基礎教育科目としての充実を図る予定である。</p>	
<p>昨年度からの改善点 ⇒担当教員には評価についての観点を示し、取りまとめ役教員が全教員の評価を基づいて最終的な評価を行った。</p>	

吉川 徹	社会学概論
<p>教員コメント ⇒この年度から新たに始まった講義だが、標準的な評価結果を得ている。よって、この授業形態で、さらに内容をアップデートしつつ進めていくことにしたい。他概論との差異化を図ってほしいとの意見が出ているが、1年次に必修概論の数が多く、重なりがあることについては、本授業の担当者の検討の範囲を超える大きな問題であるので対応は難しい。</p>	
<p>昨年度からの改善点 ⇒該当しない。</p>	

西森 年寿	教育学概論
<p>教員コメント ⇒教育学概論は今年からスタートした授業です。概論という授業の制約上、通常の専門授業と同じ観点で評価することは難しいのかなとも思いますが、とにかくも、まだまだ試行錯誤の段階の授業ですので、頂いた意見などをもとに今後改善策を教育学の教員の間で積極的に考えていきたいと思えます。</p>	
<p>昨年度からの改善点⇒</p>	

志水 宏吉	共生学概論
<p>教員コメント ⇒開講一年目で、手探りで授業を運営していった。授業評価アンケートでは、授業全体の数値とほぼ同等の結果がすべての項目で出ている。さらに改善を続けていきたい。</p>	
<p>昨年度からの改善点⇒</p>	

金澤 忠博	比較発達行動学・比較発達心理学特講 I
<p>教員コメント</p> <p>⇒月曜朝 1 限という時間帯ではあるが、今年は多くの学生さんが真面目に出席してくれ講義にも自然と熱が入った。リアクションペーパーに毎回感想や質問を記入してもらい質問への回答を次の講義の冒頭で行った。鋭い質問が多く大変刺激になり、受講生とのコミュニケーションにもなるので今後も続けたい。新たな知見をリアルタイムで追加していくように心がけたが、資料や説明が盛りだくさんになりすぎて消化不良になっていると思うので古い情報から整理していく必要性を感じた。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒予習ができるように資料を使用する予定の時間の 1 週間前には配布するようにした。しかし、アンケート結果にその効果が見られたとは言いがたく、宿題を出すなど、さらなる工夫が必要であると感じた。</p>	

山田 一憲	比較行動学
<p>教員コメント</p> <p>⇒グループワークや議論を取り入れて欲しいとのコメントがありましたので、次年度に取り入れてみたいと思います。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒特にありません。</p>	

山田 一憲	比較行動学特講 I
<p>教員コメント</p> <p>⇒アンケート回答者は 3 名でした。期末試験では素晴らしい回答があり、アンケートでもそれなりの評価をもらいましたので、問題なく授業が進められたと思っています。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒特にありません。</p>	

中野 良彦	生物人類学・生物人類学特講 II
<p>教員コメント</p> <p>⇒講義形式であり、大半の受講生にとって専門外の部分が多いため、予習・復習の時間が少なくなることは否めない。また、同様の理由で、難易度を低めにし、理解度を高くすることに重点をあてたが、その点はある程度結果に反映されていると考える。ただし、授業ペースがやや早かったことは確かに感じており、この点は改善する予定である。シラバスと異なる内容として、授業時間と同時間帯に、生物人類学に関連する外国人研究者の講演が人間科学セミナーとして開かれたため、そこへの出席を授業としたことがあった。しかし、こうした変更は、受講生に有益であったと考えており、今後も臨機応変に行いたいと考えている。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒昨年度は、急遽、担当することとなり、引き継ぎもなく前任者のシラバスに沿った授業を行う必要があったため、内容を消化するのに精一杯であったが、今年度は自分で内容や進捗を計画することができたため、前年度より格段にまとまりのある授業を行うことができた。資料についても、追加、削除、更新を行い、より内容に沿ったものにした。</p>	

渥美 公秀	ボランティアの集団力学・共生行動論特講 I
<p>教員コメント</p> <p>⇒今年度も非常に熱心に講義を受けてくれました。今年の最大の問題は、月曜日振り替えて本来の授業時間が、別の授業にあてられていることを認識しないまま、その日に試験を実施する予定を立ててしまっていたことでした。間際に気づき、結局レポートにしました。こうした事前に準備すべき事柄を確認せずにいたことで受講生にはご迷惑をおかけしました。このことを反省しながら、周到に授業計画を立て、進めていきます。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒配付資料や出席、レポートの時期などは改善できたと思います。</p>	

森川 和則	基礎心理学・基礎心理学特講 II
<p>教員コメント</p> <p>⇒授業改善アンケートの質問7～10は人間科学部・研究科の全体平均を大きく上回っているのが、好評であったと言えます。シラバスに沿っていたかという質問には、学部生の評価は全体平均をわずかに下回りましたが、院生の評価は全体平均をかなり上回っていたので、必ずしもシラバスに問題があるとは思われません。ただし、質問2の予習・復習にあてた時間は全体平均を下回りました。今後は宿題などの課題を増やしてみましよう。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒授業中に配布するハンドアウトをCLEからダウンロードできるようにしたことは大きな改善点です。テレビ番組ではないので一話完結にする必要はないと思いますが、トピックの途中で授業時間が終了しないようにタイミングを調整して、できるだけトピックの終わりと授業時間の終わりが一致するように心がけました。</p>	

釘原 直樹	集団力学・社会心理学特講 II
<p>教員コメント</p> <p>⇒本講義の質問別得点の得点パターンは、全体平均のパターンとほぼ一致しており、学生には普通の講義と見なされていたことがうかがえる。ただ、院生と学部生で評価に少々ズレがあったので、その原因について今後考えてみたい。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒</p>	

青野 正二	環境心理学・環境行動学特講 I
<p>教員コメント</p> <p>⇒今年度の授業では、従来に比べて、授業方法・資料の工夫・準備（質問(8)）および興味・関心（質問(7)）が上がっていた。授業内容自体は例年とほぼ同じものであったが、今年度は、（すべてではないものの）具体的な事例を多くしたり、またそれらを理論的な説明より先に提示することも行った。さらに来年度へ向けて、授業の工夫に関する自由記述での指摘事項について検討していきたい。一方で、難易度（質問(3)）がやや易しいにもかかわらず理解度（質問(4)）がやや低くなっているのは、理論的な箇所の説明に問題があったのかもしれない。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒昨年度の課題として、受講生からの指摘もあり、具体的な研究例を増やすことや資料の工夫をあげていたが、ある程度の改善がみられた。</p>	

臼井 伸之介	安全行動学・安全行動学特講 II
<p>教員コメント</p> <p>⇒配付資料の中で、特に統計データなどの更新をしてほしい、との指摘があった。これは例えば事故データなどの経年推移の最新が数年前となっているような図表が散見されたからだと思う。次年度は資料のアップデートに努めたい。授業評価は全体的に平均とあまり変わらない結果だったので、興味・関心、授業の工夫などの項目がより高評価となるように、次年度は授業内容やプレゼン方法など一部見直したい。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒講義室を 33 室に変更することで、履修生のスペースをやや広くすることができた。ただ、椅子は昨年と変わらず固定椅子のため、グループ討議のしやすさは変わらなかったように思う。</p>	

佐藤 眞一	臨床死生学・老年行動学・臨床死生学・老年行動学特講 II (A)
<p>教員コメント</p> <p>⇒研究分野の専門 2 科目のうちの 1 科目である。3 名の教員によるオムニバス講義であったが、授業内容については事前に調整して内容が重ならないように工夫した。全般的には高評価であった。超高齢社会の現代に生きている者として、学生も新しい知識や情報を得ることができ、思考を深めることができたものと思う。今後も、心理学・行動学に基づく基礎的な思考法はもとより、新たな知見をわかりやすく伝えたいと思量する。一部の教員の授業資料が配付されないため、配付の要望があったので対応したい。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒予習・復習の時間が全体平均レベルのままで向上しないため、学生に身近な内容等を取り上げることを意識して授業を組み立てるようにした。引き続き参考図書を提示して、自己学習時間の向上を図りたい。</p>	

篠原 一光	応用認知心理学・応用認知心理学特講 I
<p>教員コメント</p> <p>⇒講義内容についてはほぼ例年通りで、変更は部分的な改善を行う程度だった。講義の分量は昨年度よりも減らしたため、例年の反省点であった後半で急ぎ気味に進行してしまうという点は若干改善したのではないかと考えている。但し授業内でのディスカッションや、授業外の課題については昨年よりも実施量が減ったように感じられるため、来年度はこの点を改善したい。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒講義の分量の調整を行い、進行上無理のない内容に近づいた。</p>	

友枝 敏雄	社会学説史・社会学説史特講
<p>教員コメント</p> <p>⇒講義の最初 5 分～10 分で時事的な話題もしくは勉学への心構えを話したのですが、これが無駄という意見もあったようです。昨年度はこれがよかったという意見をもらいました。受講生全員を満足させるような講義のやり方は、つくづく難しいと思います。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒出席している院生に、5 分～10 分程度の発表をしてもらい、院生の意欲を高めようと思いました。院生には高評価でしたが、発表の機会のなかった学生には、疎外感をもたせてしまったようです。「あちら立てれば、こちら立たずで、なかなか難しいな」というのが率直な感想です。</p>	

吉川 徹	経験社会学・経験社会学特講
<p>教員コメント ⇒熱心に聞いてくれました。熱心に教えました。コメントもありがとうございます。参考にします</p>	
<p>昨年度からの改善点 ⇒配布する講義資料をアップデートしました。</p>	

斉藤 弥生	比較福祉論 I・比較福祉論特講 I
<p>教員コメント ⇒秋冬の限の講義にもかかわらず、履修者の皆さんの多くが最後まで出席してくれたことを嬉しく思います。皆さんからのコメントにお答えします。「ポートフォリオの4行には質問など書ききれない」→短時間に短い言葉で、自分の意見を端的にまとめる練習だと思ってください。その代わりに、関心が高いテーマについては、記憶が鮮明なうちに自分でまとめておき、最終レポートにぜひとも反映させてください。必ず力がつくはず。「ディスカッションの時間が欲しかった」「学生がアウトプットして議論する時間があれば当事者意識がもてる」→これは私の反省点です。29年度はターム制科目として、秋学期に2時間ずつ、7回の講義となります。学生の皆さんが参加できるよう、アクティブラーニングの手法を取り入れていきたいと思っています。</p>	
<p>昨年度からの改善点 ⇒難易度が高いという指摘に対して、よりわかりやすく、繰り返し説明をするよう心がけました。今年度はおおむね理解ができたという回答が多かったのでよかったと思っています。次年度も幅広い学年が履修していることを意識して講義を進めたいと思います。</p>	

牟田 和恵	ジェンダー論・ジェンダー論特講
<p>教員コメント ⇒授業外の学習を促すため、複数の小課題を課しているが、質問2（授業外の予習復習時間）について、一般の学部生とG30生、大学院生ではかなり差があった。課題に求める水準をできるだけ具体的にすべきであろう。</p>	
<p>昨年度からの改善点 ⇒例年、受講生の関心に近づけて講義するよう努めているが、とくに今期は授業予定内容に関連する事件やニュースが起こったので、予定順を変更して講義した。</p>	

辻 大介	コミュニケーション社会学
<p>教員コメント ⇒昨年度から総合評価(Q10)が0.11ポイント上がって4.60でした。全体平均も0.63ポイント上まわっているので今後も高評価を保っていききたいものです。「毎週来るのが楽しい授業でした!」というコメントも嬉しく思います。</p>	
<p>昨年度からの改善点 ⇒毎年少しずつ講義内容を修正していったことが高評価につながったものと思いますが、これまで扱いきれなかったことも多いので、その部分を中心に来年度はかなり内容を変える予定です。</p>	

中山 康雄	認知システム論・認知システム論特講
<p>教員コメント ⇒昨年度とは、講義科目が異なるので単純に比べることができないが、評価には改善が見られた。ひとつには、講義のテーマが受講学生にとってより興味のあるものだったためと思われる。特に、高評価の学生が数名いたことは自分にとっては喜ばしいことである。また、学問的知識が身についたとする評価にも改善が見られた。</p>	
<p>昨年度からの改善点 ⇒基本的に昨年度と同様の形式だが、小レポートで出された前の授業の質問により丁寧に回答する努力を行った。</p>	

村上 靖彦	現象学的な質的研究特講
<p>教員コメント ⇒頂いたコメントではそれほど問題がないかと思うのですが、次年度はより学生さんの主体的な参加を促す仕組みを導入したいと思っております。</p>	
<p>昨年度からの改善点 ⇒とくになし。</p>	

檜垣 立哉	現代思想論・現代思想論特講
<p>教員コメント ⇒二人の教員の授業になって、後半五回の非常勤の先生のプログラムがシラバスに指示できなかつたため、少しシラバスとの即応度はあったが、基本満足が得られていることはよいことだとも思います。知識というよりも考えさせるということを目標に授業をしたつもりであるはこの点ほうけいれられているようでよかつた。一部分野の学生さんにはうけがわるかつたが、これは少人数であり一個人の意見が強くでるだろうことからやむなしとおもう。</p>	
<p>昨年度からの改善点 ⇒より社会の現実的な問題につなげるため、ビデオや映画を多用した。この点は賛否両論あるがまあよかつたのではとおもう。</p>	

檜垣 立哉	共生の人間学特講 II
<p>教員コメント ⇒特講についてはサンプル数が少なくなるともいえないが、学部授業と同様の評価であつたと考えられる。二人の教員でやっているところで、シラバスが余り即応しないケースがでてくる。この点は改善の必要がある。</p>	
<p>昨年度からの改善点 ⇒ビデオ、映画など社会や時代に連関するものはより映像を使うようにしている。</p>	

Schwentker Wolfgang	比較思想史・比較思想史特講
<p>教員コメント ⇒アンケートの結果を確認しました。全体として問題がないと思います。学生からの自由回答記述ではレジュメが必要とありましたが、私としては学生が自分でメモを取ることで習得してほしいと考えています。</p> <p>履修者が様々だったので授業を進めていく上で標準を合わせるのが難しかったです。</p>	
<p>昨年度からの改善点 ⇒今年度は配布資料を増やしました。</p>	

中川 敏	人類学理論・人類学理論特講
<p>教員コメント ⇒シラバスの充実をこころがけたい。</p>	
<p>昨年度からの改善点 ⇒授業の内容の一貫性を保てた。</p>	

志水 宏吉	学校社会学特講
<p>教員コメント</p> <p>⇒他の科目と比べると、予習・復習にあてた時間がかなり長くなっている。グループ別の発表を取り入れたことの影響と思われる。次年度もこの方針を続けていきたい。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒学部生と院生が参加している授業なので、両者が意見を交換する局面を増やすよう心がけた。</p>	

高田 一宏	コミュニティ教育学
<p>教員コメント</p> <p>⇒評価については全体平均から大きな隔たりはないが、ふだんの出席率は例年より低めで、アンケートの回収率は約3割にとどまった。折を見て配当年次（今は3年次の後期配当）を見直したい。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒授業の資料（映像、写真・歴史的な史料など）の精選・見直しを図りたい。</p>	

老松 克博	臨床心理学特講 II
<p>教員コメント</p> <p>⇒臨床に関するオリエンテーションは、おそらく受講生ひとりひとり、相当に異なっています。とくにこの領域では、その多様性が甚だしいため、イメージを用いる臨床にもともと関心が薄い受講生にとっては、かなりの忍耐力を要する授業だったかもしれません。実際の臨床は、多くの受講生の皆さんが信じ込んでいるほど合理的に進められるものではないし、エビデンスにもとづく知識ですませられるものでもないでしょう。私としては、皆さんのなかに、宗教性や信仰心（きわめて広い意味での）に対する必要最小限の関心がなくなってきつつあることに懸念を感じます。不合理な意味不明の展開と「今ここ」で格闘することの苦しさと奥深さが少しでも伝わってほしい、と願っています。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒参考になる文献などを予習用に紹介するのは実践に役に立たないと考え、行なっていません。ふだんの生活や何気ない日常に紛れ込んでいる素朴な癒しの要素を見直してもらうために、例年以上に詳しいイメージの拡充と解説を行なったつもりです。</p>	

近藤 博之	教育動態学・教育動態学特講
<p>教員コメント</p> <p>⇒最終提出レポートにインターネットからの剽窃が少なからずあったことが残念でした。引用部を区別し、出所を明示していればよいのですが、文章の一部でそれらしく出所に言及し、他の部分はさも自分で考えたかのように粉飾してレポート全体を改作文章で埋めるという悪質な例が複数ありました。学生諸君には、そのようなことをしても、少し調べれば直ぐに分かってしまうことを理解しておいて欲しいと思います（もちろん優れたレポートも多数ありました）。全体の評価が低いのはこちらの反省点として、次年度の授業で工夫していきたいと思えます。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒</p>	

三宮 真智子	教育コミュニケーション学 I・教育コミュニケーション学特講 I
<p>教員コメント</p> <p>⇒概ね良好な結果であったが、回答した大学院生と学部生の評価の差がやや目立った（特に、Q2, Q7, Q8, Q9, Q10）。院生は全員が全回出席であるのに対し、学部生は就活・部活その他で欠席率の高い受講者が含まれていたことも一因であろうし、また、もともとの関心や熱意の違いが反映されたとも考えられる。今後、さらに主体的な活動を盛り込み、授業外での学習時間の増加を図る予定である。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒今回、受講者数がかかなり多かったため、「コミュニケーション・ペーパー」を活用して、できる限り受講者とのコミュニケーションを図るよう努めた。</p>	

近藤 博之	教育と社会
<p>教員コメント</p> <p>⇒1限目の授業で毎回きっちり出席するのは難しい面がありますが、たしかに全体として受講生の関心をつなぎとめることができていなかったように思います。ペーパーでの質問と応答の機会は設けましたが、授業中の質問がほとんどなかったのが残念でした。また、試験の結果も全体によくありませんでした。次年度は、もう少し評価を上げるように工夫していきたいと思います。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒</p>	

高田 一宏	教育文化学
<p>教員コメント</p> <p>⇒各項目の評価点は全体平均よりも高めだが、問2（予習・復習）だけは全体平均を下まわっている。事前にテキストを読んでくるように伝えてはいたのだが、周知されていなかった。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒テキストの内容がやや古くなってきたので、補足の資料の充実を図った。また、教育改革の最新事情についても、新聞記事などを使って紹介するよう心がけた。</p>	

園山 大祐	比較教育制度学
<p>教員コメント</p> <p>⇒授業受講ありがとうございました。難民や移民の問題が国内外で議論されているだけに、日本における受け入れ制度について考えるきっかけになればと思います。みなさん、レポートよくまとめられていました。すべての章を扱うことができませんでしたが、多くの学生はテキストを通読することで理解を深めておりました。配布した新聞切抜きにもコメントをいただきありがとうございました。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒テキストと配布レジュメ、そして新聞解説や文献紹介を行ったことでレポートの内容がより豊かになったと感じます。</p>	

藤岡 淳子	教育心理学 I
<p>教員コメント</p> <p>⇒参考にします。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒最新の犯罪からの離脱理論を加えた。</p>	

佐々木 淳	臨床心理学 I
<p>教員コメント</p> <p>⇒教科書をベースに、臨床心理学全般の様々なトピックを扱う授業スタイルに変更した2年目の授業でした。近年、受講生同士の意見への興味が強まっているように感じていましたが、今年の授業でもコメントシートからそのことを読み取れましたし、答えのない問いを考えたいという方向性も強く感じました。そのため、今年の授業ではディスカッションを多めに入れたりなど工夫をしましたが、授業評価を拝見して、ある程度は希望に添えたのかなと感じています。ちょっと難しい問いを設定しているかもしれませんが、来年度はよりそれを充実させたいと思います。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒ディスカッションの問題や時間を増やした点。</p>	

澤村 信英	国際協力学 II・国際協力学特講 II
<p>教員コメント</p> <p>⇒学部生が20人、大学院生が4人という受講生の割合であったが、学部生にとっては英語での授業ということで、日本語での補足説明は適宜行ったが（逆に日本語を解さない留学生には一般に不評）、理解が進まなかった面もあったかもしれない。あるいは、国際開発・国際協力という実践志向の学問でもあり、新たな教科書的な知識を得たい、という学生にとっては、授業の展開がそうはなっていないので、不満もあっただろう。一方で、大学院生はこの分野に関心の高い学生だけが受講しているの、比較的肯定的なアンケート結果になっている。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒</p>	

中道 正之	Primateology in Japan・日本のサル学
<p>教員コメント</p> <p>⇒英語による授業で、G30学生、OSSEP学生、さらに人間科学部の学部生が受講していたので、学年も母国語も、専門も異なる学生の集まりでの講義となった。授業中には積極的に意見や感想を述べてもらうようにした。また、嵐山モンキーパークでのサル観察学習の機会も設けた。このような取り組みをしたが、その割に学生評価は全体の平均を少し上回る程度であり、問題点を見出し、改善する必要があると思っている。特に、TAの学生から、専門用語を平易な英語で表現するように指摘を受けた。今後は、このことに留意するとともに、さらに、短時間（例えば、2、3分）のビデオでの行動の紹介も含めた授業をさらに、進める必要があると思う。OSSEPの学生から、阪大に短期留学してきて、授業中に日本人学生と初めて会話する機会ができたという喜びの声を聞いた。この科目が、多様な学生の交じり合い、融合の場となっていることがわかり嬉しく思っている。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒配布資料に前年よりも詳しい説明を加えること、議論の時間を多くとるように心掛けた。</p>	

Robert Scott North	Seminar in International Labor Theory
<p>教員コメント</p> <p>⇒In the survey and in person, students have told me that the course is both challenging and stimulating. It helps them understand fundamental structures of modern society which they need to know to position themselves for employment, or make other choices. This year's class were gratifyingly easy to teach, and I hope they will continue to reflect on the principles and problems raised in our discussions.</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒I reduced the theoretical portion of the course slightly. Reading "The German Ideology" takes time and seems less than perfectly related to contemporary labor issues, but it is the heart of Marx's explanation of the contradictions of capitalism. I will have to work harder to streamline this part of the class. Still, students deserve to spend some time with this conical text.</p>	

Schwentker Wolfgang	Contemporary Japanese Thought
<p>教員コメント⇒</p> <p>I checked all personal comments of students and the evaluation in general. I received a couple of positive comments and some negative comments. Some students in English classes asked for resumes of the content which I strongly rejected. It is the duty of students to take notes. I consider taking notes as a crucial way of learning.</p> <p>I am prepared, however, to submit learning material a week earlier than usual in order to give students the opportunity to prepare classes.</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒Compared to the classes last year I provided students in 2016/17 with more reading material.</p>	

権藤 恭之	Psychology of Aging
<p>教員コメント</p> <p>⇒履修者の興味が、高齢者心理よりも高齢社会全般になりがちであるので、心理的な側面に興味を持つように授業内容を改善する必要があると感じた。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒授業外課題を増やした。</p>	

澤村 信英	International Development and Collaboration II
<p>教員コメント</p> <p>⇒アンケート結果は、受講者によりかなりばらつきがある。これは国際開発・国際協力という授業の性格によるところもあるが、受講生の約8割(13人)は特別聴講生(短期の交換留学生)であり、限られた英語での開講授業の中で、授業内容にそれほど関心がなくとも、履修せざるを得ないということもあったかもしれない。これら留学生の授業中のインタラクションやリアクションが限定的であったことは、そもそもの関心が必ずしも高くなかったという表れでもあろうし、全体として授業づくりが難しかった。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒</p>	

Philip Streich	Peace and Conflict Studies II
<p>教員コメント</p> <p>⇒アンケートの結果をわかりました。毎学期授業を改良してみます。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒いいえ、アンケートはそのまま大丈夫です。</p>	

ズグスタ リチャード	Issues in Asian Anthropology
<p>教員コメント</p> <p>⇒昨年より理解しやすい授業を行いたいと思います。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒学生と教員がうまくコミュニケーション取れるよう努力しました。</p>	